

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

②施設・事業所情報

名称：ナーサリーつづき	種別：認可保育所
代表者氏名：湊崎 端穂子	定員（利用人数）： 137名（135名）
所在地：〒224-0029 横浜市都筑区南山田 2-26-8	
TEL：045-595-2722	
ホームページ：http://www.nursery-tsuduki.com	

【施設・事業所の概要】

開設年月日 2001年7月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 和泉福祉会		
職員数	常勤職員： 33名	非常勤職員： 9名
専門職員	保育士 25名	看護師 1名
	管理栄養士 3名	調理師 2名
	栄養士 3名	
施設・設備 の概要	(居室数)	(設備等)
	保育室7室、給食室1室、配膳室1室、職員室1室、看護室1室、健康観察室1室	ランチルーム、大型遊具、砂場、常設プール、多目的スペース

③理念・基本方針

保育理念

初代和泉福祉会理事長今田義之により、昭和43年に横浜市戸塚区（後年泉区に分区）ふたば保育園を開園しました。保育園設立には、「地域の次世代を担う子どもたちの良質な発達を、児童福祉の理念に基づき支援していくことにより、地域福祉への貢献・発展に寄与する」という設立者の強い「思い」が色濃く反映されています。

子どもがそれぞれに持っている個性を認め、柔軟に受け止め、尊重しながら保育者との安定した信頼関係を基に個々に応じた社会性の芽生え、育ちを援助し多様化する社会の中で逞しく「生きる」為の基礎を育むこと、が和泉福祉会の理念です。

園目標

「しなやかに こころゆたかに すこやかに」

集団生活を通して、いろいろな活動を積極的に経験させ、異年齢の子ども同士の交流を図りながら、ひとりひとりの成長・発達状態をふまえて、心身ともに調和のとれた子どもの育成に努めます。

《子どものすがた》

心も体も健やかに育つ子

相手を思いやり互いに尊重する子

身のまわりのことに興味、関心を持ち考え工夫し創造する子

自分の力で生活をつくるしなやかな子

自分の思いを伝えられる子

④施設・事業所の特徴的な取組

保育目標・ナーサリーつづきの子どものすがたは、職員の園内研修で、子どもたちのそれぞれの年齢での目指す姿を詳細に話し合い位置づけたものであり、ナーサリーつづきの保育の根幹にあるものとして、園生活の手引きに掲載しています。これは、人としての根っここの部分を作る大切な時期にあるお子さまをお預かりするということを念頭に、様々な経験をする中での大切な土台作りに取り組む場と考えています。

(特徴)

子どもたちに安らぎと笑顔を与えるあたたかい保育と子どもたちの好奇心や意欲、創造力を育む教育を融合

- ・体育指導

外部講師による発達に適した専門的な体育指導を行っています。

- ・生活指導

個々の発達と個性、自主性を大切に、生活習慣が身につくようにサポートします。

- ・情操教育

造形や描画など創作活動を中心に、知的興味や感性を育む情操教育をします。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年6月18日(契約日)～2022年3月10日(評価結果確定日)
受審回数(前回の受審時期)	3回(2016年度)

⑥総評

◆特に評価の高い点

- ・子どもたちは主体的に様々なことに取り組み、園生活を楽しんでいます

園は、子どもの発達段階に合わせた環境を整え、毎日の繰り返しの中で子どもが主体的に生活できるようにしています。保育士は、子どもの表情や仕草、視線などから子どもの思いを汲み取り、一つずつ言葉にして確かめて、子どもが言葉で自分の思いを表現できるように働きかけています。保育士に自分の思いを受けとめてもらい、小さな発見と一緒に喜んでもらう経験を重ねることで、子どもたちは自分の思いを素直に言葉で表現できるように育っていて、幼児になると自分たちで話し合って活動の内容を決めるなどしています。

保育室には、子どもの年齢や発達に合わせたおもちゃや教材、素材等が用意され、子どもが自分で選んで遊べるようになっています。自由遊びの時間には、子どもたちはそれぞれが好きな遊びを見つけ、友だちとあるいは一人で遊んでいます。ブロックで作った作品を使って友だちとごっこ遊びをしたり、机上遊びに自分たちで作った駒を足して新しいルールを作って遊んだり、自由な発想で遊びを広げています。クラスの活動でも、地域の年長児交流が中止になったことを受けて職員対5歳児のドッジボール大会を企画するなど、子ども同士で考えを出し合い、企画するなど主体的に取り組んでいて、のびのびと園生活を楽しんでいます。

- ・子どもがお互いの良さを認め合えるよう、人権教育を取り入れています

職員会議や園内研修などで、子どもの人権尊重を取り上げ、職員が意識して保育にあたれるようにしています。保育士は、障がいや関わりにくさなども個性の一つとしてとらえ、子どもの良さを引き出せるように努めています。

保育においては、子ども同士で話し合う時間を多く取り、お互いの考えを聞き、折り合いをつけることを通して、子どもがそれぞれの良さを認め、できない所をカバーする関係が育つように支援しています。帰りの会で友だちの良かったことを発表したり、「あったか言葉」や「ちくちく言葉」について話し合うなどし、子どもがお互いを認め、尊重し合えるようにしています。プライベートゾーンについての絵本を読んだり、オレンジリボン作りを通して権利擁護について分かりやすく説明するなどの取り組みもしています。

- ・保育環境が変化しても保育の質を維持できるよう人材育成に力を入れています

園は、人材育成の方針を明確にし、積極的に取り組んでいます。

理念や方針、保育に関する心がけなど園が大切にしていることを綴った職員ハンドブックを全職員に配付し、年度始めに読み合わせをしています。人権や SIDS(乳幼児突然死症候群)、虐待等の園内研修を実施するほか、外部研修への参加も積極的にすすめています。

人材育成の計画として、職層別に求められる組織性と専門性を記した「求められる職員像」を作成し、職員に周知しています。職員は、階層別に細かい指標が書かれた職員チェックシートを自己評価するとともに、年度の目標を設定し3期に分けて「コミットメントシート」を用いて達成度の評価をしています。

また、新任保育士育成のためのメンター制度として、個別に先輩保育士がついて3年間指導します。育成のためのマニュアルを整備し園の業務をもれなく学べるようにするとともに、細やかに相談に応じられるようにしています。

◆改善を求められる点

・保護者への情報発信の方法を工夫することが期待されます

「園生活の手引」に必要な情報を掲載するとともに、毎月、園だよりやクラスだより等で園の方針や子どもの様子を伝えています。全園児連絡帳を用いるとともに、送迎時の会話では、その日の子どもの様子を伝え、保護者の相談にのっています。また、懇談会や個人面談、運動会等の保護者参加行事を行い、保護者が園の取り組みを理解できるようにしています。

ただし、コロナ禍でテラスでの受け入れとなったことなどもあり、保護者からは、園の様子が見えにくいなど不安の声があがっています。園の取り組みやその目的、子どもの様子などを積極的に情報発信していくことが期待されます。また、保護者との信頼関係を深めるためにも、大きな変更時には事前に変更の理由を保護者に分かりやすく伝え、保護者の意向を確認しながら段階的に進めるなど、発信方法を工夫していくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度、第三者評価受審に際し、保護者の皆様ならびに関係者の方々にはアンケートの記入等ご協力いただきましたことに感謝し、お礼申し上げます。

コロナ禍といわれる事態になる前、保育園が「開所すること」「開所できること」は当然でした。その前提のもと、私どもは「子どもの最善の利益」に資するため、保育の質の向上を目指してきましたが、感染拡大によってその前提は崩れました。そんな先の見えない不安の中、お子さまと保護者の方、そして職員を思うと当たり前の日常の中に「普通に保育できること」の大切さを改めて認識し、今こそ「開所すること」が使命と考え、児童福祉施設としての原点に立ち返りました。

世の中は5年経つと少なからず変化しているものですが、コロナ禍を経て想定外の変わり方をしました。開園当時より、私どもは3歳児以上の教育部分を強化する一環として制服や体操教室を導入するなど保育園として先駆的な保育を実践してきました。しかし、奇しくも開園20周年という節目にこの危機的状況に直面し、第三者評価をきっかけとせずとも、あらゆることを見直し、保育を継続してまいりました。時代感覚を失うことなくwithコロナ、afterコロナを見据えて新しい保育の形を模索している最中であって、保護者の皆様から頂いたご意見や評価員の方からのアドバイスは大変参考になりました。

保育園は多様な考えを持った方、あるいは背景の方が集う場所であると言えます。多様性がますます叫ばれる現代、多くの保育園がある中、縁あって「ナーサリーつづき」に集った人すべてが、異なる立場や、考えを持つ他者の考えを尊重し、その置かれた状況にも想像力を働かせ、尊重し合える関係性を築くことは今後の課題として挙げられます。

新型コロナウイルス感染症が終息するにはまだ時間がかかりそうです。閉塞感でいっぱいの中でも子どもたちは元気で笑顔が輝いており、希望そのものです。私たち大人は未来を生きるその尊い存在を社会全体で守り、家庭を中心として育む必要があり、保育園は社会がその責任において子育てを担う場所の一つです。これからも保護者の方とその認識を一にし、共に歩んでゆければ幸いです。

ナーサリーつづき
園長 湊崎 端穂子

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり